



みんなに話したくなる
みんなと始める
事業ごみ減量ニュースレター

ごみゅにけーしょん Communication

vol.28

そのごみ、 分別できていますか？

京都市で唯一の最終処分場“東部山間埋立処分地(エコランド音羽の杜)”は、新・京都市ごみ半減プランに掲げるごみ減量の目標を達成してもあと約50年でいっぱいになる見込みです。最終処分場を1日でも長く使用するために、ごみの減量は待ったなしです。このため、京都市では条例を改正し、市民・事業者の皆様へ紙ごみ等の減量と分別に取り組んでいただいています。みなさんの事業所でも紙ごみの“へらす”“わける”はきちんと行われていますか？



京都市環境政策局ごみ減量推進課



たくさんのごみは…



清掃工場で焼却され…



焼却灰を最終処分場へ

ごみ減量の目標達成しても、
あと50年でいっぱいになる…

ごみ減量の現場取材

今回の現場はこちら！

総合病院 日本バプテスト病院

比叡山の麓にある、キリスト教精神のもと「全人医療」を基本理念とした総合病院。



日本バプテスト病院 検索

BEFORE



ごみ箱の設置は、
各所に1種類
だったものを…

AFTER



- 分別用ごみ箱を6種類設置。ごみ箱は段ボールを再利用。
- 捨てるときに迷いやすいものは掲示を作成。

今後も継続
していきます！



部署独自で作られたサインも



みんなで目指すごみ減量 京都や地域のみなさんのために

きっかけ 現実との直面(ピンチをチャンスに)

京都市のごみ焼却施設で行われている搬入物検査(施設への不適正なごみの搬入を防ぐための検査)で不適正なごみの混入が見つかり、指導を受けたことで、ごみの処理方法等の見直しがはじまりました。

分別の導入ポイント

①職員向け講習会の開催

職員が一丸となって行動を起こす原動力になったのは、最終処分場に限りがあると実感したことでした。職員向け講習会で、市環境共生センター職員から“最終処分場の現状とごみ減量・分別の必要性”を聞き、職員間でも分別ルールとその必要性の理解が深まりました。

②新設ごみ箱とサインにひと工夫

分別用のごみ箱は、薬品などが入っていたダンボールを再利用してコストを0円に。また、ごみ箱のサインは、職員自らが院内統一のものをデザインし、誰もが印刷できるようにすることで、取組が進むよう環境を整えました。

現在とこれから ごみ分別の環境づくりを継続する

ごみの分別本格導入後、それぞれの部署で工夫を凝らした環境づくりを行っています。これらの取組が評価され、「平成28年度ごみ減量3R活動優良事業所」に認定を受けました。「まず今行っている“ごみの分別”を、きちんと続けていきたい」と、話すのは担当者の福本さん。今後のさらなる取組にも期待です。

事業ごみ収集のご相談は 京都環境事業協同組合まで

「京都市推奨事業系ごみ袋(透明袋)」も販売しています！ ★ごみ袋の売上げの一部は市内児童養護施設等に寄付されています！

相談
窓口

Tel. 075-691-5517

受付時間 月～金 13:00～17:00

お問合せは
お気軽に！



ごみ削減に役立つ豆知識

ごみゅにけーしょん

Q&A

Q 京都市のごみ焼却施設は現在何工場体制でしょうか？

① 3工場 ② 4工場 ③ 5工場

ピーク時よりも
縮小されています！



※答えは裏面にあります。



京都市
CITY OF KYOTO

家でも職場でも分別するのは当たり前 「気付き」を職場で共有しよう!!

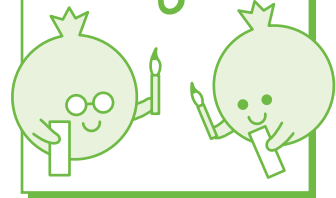
パプテスト病院内で本格的に始まったごみの分別。350名もの職員に啓発するのは、至難の技。と思いきや、女性ドクターの「ごみの分別を家でするのは当然なのだから、職場でも分別は当たり前」との一声が、分別の取組を進める大きな力となったそうです。分別は当然のことという「気付き」を職場で共有することの大切さを実感されていました。

「気付き」
が大切!!



ごみの減量・適正処理は、一人ひとりの意識と、行動が大切です。川柳を通じて毎回ごみ減量をわかりやすく解説します。今回のテーマは、vol.25に続き「ごみの分別です。『しまつの心』や、『もったいない』といった京都らしいライフスタイル・ビジネススタイルを推し進めませんか？

分別は
家も職場も
当たり前



ごみゅにけーしょん川柳でごみ減量

TOPICS

ごみ減量の取組状況等に関する 提出書類について

「ごみ半減をめざす『しまつのころ条例』」に基づき、事業者の皆様によるごみ減量の取組状況の報告書(前年度実績と当年度計画を記載したものを)、毎年1回提出していただいています。提出の御準備をお願いします。

提出書類	対象事業者	該当規模要件	提出期限
		延床面積 市内チェーン店の 延べ床面積合計	
事業用大規模建築物 減量計画書	すべて	1,000㎡以上 —	5月31日
事業者報告制度に 基づく報告書兼計画書	小売・飲食店	500㎡以上 3,000㎡以上	6月30日
		1,000㎡以上 3,000㎡以上	
	ホテル・旅館	市内すべて	
		—	
特定食品関連事業者 事業系廃棄物減量計画書	食品品の 製造・加工、販売、飲食店 ホテル・旅館・結婚式場	3,000㎡以上	

まもなく提出時期です!!

お忘れなく
御準備をお願いします!!

ごみゅにけーしょんQ&Aの答え：①3工場

市民の皆様、事業者の御協力と御努力により、市のごみ量はピーク時の年間82万トンから46%減の44万トンになり、また5工場あったごみ焼却施設は現在3工場まで縮小できました(環境負荷の低減と年間138億円ものごみ処理経費を削減)。今後もごみの発生抑制、分別により一層の御協力をお願いします。



ごみ箱の種類や
注意書きなどを
工夫してみよう!!

ごみの減量や分別ルールを
共有しよう!!



※パプテスト病院実例

COLUMN

京の知恵

ごみ減量にまつわる知恵を京都で活躍する人や企業がコラムで紹介!

村田堂は、明治22年から学生服の製造販売を行う京都で一番古い学生服店で、もうすぐ創業130年を迎えます。私が家業に戻ったのは、京都議定書が発効される少し前でした。家業に戻る前は毛織物メーカーに勤務し、繊維リサイクルにも少し関わっていたこともあり、繊維リサイクルを企業活動につなげていくことを模索しました。しかし、繊維リサイクルの現状は厳しく、不要になる衣服が年間一人当たり10kgくらい出ていることと、衣服はリサイクルが困難で約8割がごみとして処分されているというのが現実でした。では、何ができるのか?そこで取り組んだのが、不要になった衣服の実態と物を最後まで使うことの大切さを伝える「服育」活動でした。具体的には、出前授業やイベント等で、服のはぎれで「京こま」を作るワークショップや講座を実践しています。また、商品としても、体の成長に合わせてサイズを大きくできる機能が付いた学生服の提案もすすめています。私の願いは、自分が売ったものが最後までごみとならないこと。これからもその実現に向けて活動していきます。



長屋博久 (有限会社村田堂 取締役)



服のはぎれで作られた「京こま」

長屋博久(ながやひろひさ)：有限会社村田堂 取締役。昭和45年1月、京都市生まれ。同志社大学卒業後、日本毛織株式会社に入社。平成15年家業に戻り、現在はPTAや自治連合会等地域の活動にも積極的に協力している。

※この印刷物は、不要になりましたら「雑がみ」としてリサイクルできます。

発行：京都市環境政策局ごみ減量推進課

京都市中京区河原町通二条下る一之船入町384番地 ヤサカ河原町ビル8階
TEL：075-213-4930 FAX：075-213-0453

下記ホームページに一般廃棄物収集運搬業許可業者の連絡先・PR内容を掲載しています。
ぜひご覧ください。

京都市 一般廃棄物許可業者

検索

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000001025.html>